

第2回 山科の未来を語る懇談会における主な意見

1 目指す姿、まちづくりの方向性に関する意見

- ① 「住んで、働いて、訪れて、楽しいまち・山科へ！」という「目指す姿」について、住民としては「美しいまち」であって欲しいので、加えていただきたい。
- ② 人口減少に伴って空き家も増えていること等を踏まえ、地域で子育てをするという方向性を示していくのが良いのではないかな。
- ③ 施設一体型の小中学校の整備は難しいかもしれないが、教育面でのイメージアップにつながるよう、公立の小中一貫教育の仕組みが山科にできたら素晴らしいと思う。
- ④ 小学校等の教育現場では、教員が大変苦勞されており、大学としても教員の支援等に協力していける。

2 まちの魅力創出、ポイントとなる5つのエリアに関する意見

- ① 山科駅周辺と第二の拠点である刑務所を含めた柳辻周辺をつなぎ、人の流れが出来れば、まちが生き生きとする。
- ② 山科駅周辺と柳辻周辺をつなぐメインストリートができれば、更に魅力を創出できるのではないかな。

3 京都刑務所敷地の活用に関する意見

- ① 刑務所敷地は10haもの空間があり、大学や研究機関など、単一の活用でなく、複合的な活用が望ましい。さらに、緑があり、近隣住民が憩い、散策でき、防災にも活用できる空間もできれば良い。
- ② 刑務所敷地の活用は1つの用途ではもったいない。例えば、基礎科学研究をメインとした施設に、子どもも学べる「科学未来館」のような施設が併設されたり、地元野菜を使ったレストランができると良い。住宅については、余裕があれば整備されても良いが、周辺にマンション等も多いので、それで十分かもしれない。
- ③ 総合的、複合的な刑務所敷地の活用案については、思い描いていたとおりであり、これが実現すれば、他の地域からも人が訪れ、若い家族が移住してくれると思う。
- ④ 研究開発機関が誘致できても閉鎖的では駄目であり、人が集まり、交流を促進させる効果を生み出すためには、外から見えること、「見えるデザイン」が大事である。
- ⑤ 教育や産業関係の施設ができるのは良いと思う。さらに外から活動が見えるスペースがあると人がもっと集まるのではないかな。例えば芝生のスペースがあれば、散策や憩いの空間にもなるし、災害時の避難場所としても使える。
- ⑥ ぶどうや山科なすといった山科の農産物をPR、活用できる施設もできれば農家のインセンティブにつながる。
- ⑦ 京都リサーチパークのような施設や、将来的に交通基盤が整備されていく中で、伝統産業品や農産物、御土産などを置き、山科・京都をPRできる「道の駅」を進化させたようなものができると良い。